

単元の学習問題 自分はこれから言葉とどう向き合っていくとよいのだろうか。

【はじめ】LINEなどで文字だけではうまく感情が伝えられなかったことなど、言葉には難しさを感じることも多い。でも、言葉があるから、目には見えない友達の思いや経験を知ることができる。便利だけど危険なものでもあることを自覚して言葉を使っていきたい。

初発の感想

「言葉そのものの惨状」や「言葉の肌理」、「言葉の二極化」、「両端の『間』に息づく言葉」など、わからない表現がたくさんあった。何を言いたいのか今はまだつかめていないけれど、言葉について考えるきっかけになりそうな文章だという事は感じる。友と表現の意味を考え合いながら、鷺田さんの伝えたいことを解釈していきたい。

〇／〇（ ）

前回意味がつかめなかった表現について、言葉の意味を調べたり、前後の文脈とつなげたりして、どのようなことを言いたいのか考えた。同じ表現に注目している友の「言葉そのものの惨状」は、表面的な意味や一部を切り取って感情的になり、極端な言葉を投げつけ合う×や匿名の chat が具体例に当たるという考えに納得した。SNS の中だけでなく、自分たちの身近なところにも惨状はあると思った。

〇／〇（ ）

全体でそれぞれが追究した表現について共有した。他の表現を追求した友の考えを聞いて、「言葉そのものの惨状」は社会の余裕のなさや、「二極化」した極端な意味が、配慮なくぶつかり合うことで起きているのではないかと思った。だからこそ、鷺田さんは『間』に息づく言葉」が今こそ必要とされていると述べているのだと思う。今回は、鷺田さんの考えを基に、自分の考えをもちたい。

単元の学習問題に対する
現時点での考え

「言葉の肌理」に注目したい。確かに、言葉の意味だけでなく、言いたい気持ちも含めて相手の伝えたいことを受け止めたい。
想像するだけでは限界がある？言葉を尽くして分かり合えたことがある
簡単に「分かる」と言っているのか。

〇／〇（ ）

『間』に息づく言葉」とは何か考えた時、「言葉のもつ独特の厚み」の説明のなかに「肌理や奥行き」という言葉があることに気づいた。言葉の意味だけでなく、その言葉を発した人の背景にあるものについて思いをはせることが必要だと思った。

【単元末】今までは何気なく言葉を使っていたけれど、鷺田さんの文章を読んで、「言葉の肌理」という言葉がとても印象に残り、相手の言葉の意味だけでなく、その背景にある相手の思いや文脈を意識したいと改めて感じた。受け取る時は、相手の背景を想像することも大切だけど、言葉のもつ「独特な厚み」によってすれ違いや誤解が起こるのも事実だと思う。発信するときは、相手に受け取ってもらえることを当然と思わず、言葉を尽くして伝えたいし、安易に「分かる」と言わず相手の言いたいことも言葉で確認していきたい。

鷺田さんの考え

「言葉そのものの惨状」：戦争、感染症、災害、貧困、権勢の不正よりもさらにむごいこと。例えばSNSの誹謗中傷。学校のchatでもある？ ↓十一段落の「抵抗してきたのも言葉だった」とつながる。惨状もあるけれど、あらがえるのもまた言葉

「言葉の二極化」：極端に二つに分かれること。わかりやすさが善でわかりにくさは悪になる。 ↓九段落の「社会全体の心の余裕のなさ」によって生まれている。

「両端の『間』に息づく言葉」：あいまいな気持ちや立場もあるのに、単純化して分かりやすい言葉に飛びついてしまう。また、相手の言葉を立ち止まって受けとめず、例えば「は？何言ってるの？」みたいに反射的に返してしまう。 ↓『間』の言葉はその反対

※言葉のもつ独特な厚みを生かして、感じたことや細かなちがいを表したり、不満や不安を直接ぶつけるのではなくユーモアやアイロニーをきかせたりしていくことが今必要とされている。多様なグラデーションを許容する言葉のありように注目すれば、直接ぶつけるのでもなく、かといって接触を避けるのでもなく、互いに適切な距離を測りつつコミュニケーションをとることができる。

友の考え

【Aさん】

忙しい時に「盛り上がってきた」という。視点を変えられることを意識して言葉を使っていきたい。

【Bさん】

鷺田さんのいう、言葉にある「独特の厚み」によって誤解やすれ違いが起ることもまた事実。発信する時、相手に受け取ってもらえることを当然と思わず、言葉を尽くすことを大切にしたい。

【Cさん】

人柄や、今まで話してきた経験から、相手の言いたいことを雰囲気で「分かる」と言っているのか。本当に分かっているのか？思い込みでなく、言葉で確認していききたい。